

2. 評価基準に関する補足資料

目次

評価基準に関する補足資料	ページ
1. スキーム別評価のフレームワーク	2 - 1
1) プロジェクト方式技術協力・チーム派遣・研究協力	2 - 1
2) 開発調査	2 - 9
3) 研修員受入れ	2 - 20
2. プログラム評価のフレームワーク	2 - 24
3. 外部環境要因に関する評価	2 - 30

1. スキーム別評価のフレームワーク

1)【プロジェクト方式技術協力・チーム派遣・研究協力】

評価大項目	評価中・小項目	評価基準	評価の根拠となる情報の入手手段
<p>1. 妥当性 1-1.目標達成度 注：基本的には評価中項目(1)により評価し、それが難しい場合には、(2)も参考に評価する。</p>	<p>(1) PDM などに示された目標は達成されているか (2) 関係者の認識では目標は達成されているか？</p>	<p>(1) PDM などに示された目標は、 5. 達成されている(10割以上) 4. かなり達成されている(9割以上) 3. 概ね達成されている(8割以上) 2. あまり達成されていない(6割以上) 1. 達成されていない(6割未満) (2) カウンターパート(C/P)自身の達成感は、 5. 非常に強い。 4. 強い。 3. ある。 2. あまり強くない。 1. 全くない。</p>	<p>(1) PDM、終了時評価報告書 (2) C/P インタビュー、アンケート</p>
<p>1-2. 成果のプロジェクト目標達成への貢献度</p>	<p>(1) プロジェクト目標の達成は、成果の実現によるものであるか</p>	<p>(1) プロジェクトがなかった場合の推察あるいは他地域との比較などにより、プロジェクト目標の達成は、成果の実現によるところが 5. 非常に大きいといえる。 4. 大きいといえる。 3. 少ないといえる。 2. 少ないと思われる。 1. 全くないと思われる。</p>	<p>(1) C/P インタビュー、他地域との統計比較</p>
<p>2. 有効性 右の中項目間の重み付けは、以下のとおりである。 (1) 0.4 (2) 0.2 (3) 0.1 (4) 0.2 (5) 0.1</p>	<p>(1) 当該国のニーズに合っているか(注：下記の小項目の比率は同等である。) 1) 政策的な案件の重要性</p>	<p>(1) 1) 本件が開発政策や政府の支出面などでみた当該国にとっての重要なセクターに属し、 5. 本件は同セクターの中での重要な開発課題に関わりが深いものである。 4. 本件は同セクターの中での重要な開発課題に関わりがある。 3. ている。 2. てはいないものの、政策文書で強調されるなど、重要な開発課題と考えられる。 1. ておらず、特に重要な開発課題と考えられる理由がない。</p>	<p>(1) 1) プロジェクトの要望書、PDM の上位目標、開発計画</p>

	<p>2) 受益者の存在</p> <p>3) スキーム選択の適切さ</p> <p>4) 日本の技術の有用度</p> <p>5) 他ドナーとの援助の重複について(本項目は参考情報であり、5段階評価ではなく、タイプを判別する。)</p> <p>(2) 計画は適切に作成されているか(注:下記の小項目の比率は同等である)</p> <p>1) 目標の明確さ</p>	<p>2) 要望書や基礎調査・事前調査で</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 広範な受益者が明確に確認されている。 4. 広範な受益者がある程度明確に確認されている 3. 一定の受益者が確認されている。 2. 一定の受益者が想定されるが、あまり明確に規定されていない。 1. 受益者が少ない上に明確に規定されていない。 <p>3) 本件で選択されたスキームは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に適している。 4. 適している。 3. 特に問題はない。 2. あまり適していない。 1. 全く適しておらず、より適切なスキームがある。 <p>4) 専門家・日本研修・機材などから総合的に判断して、本件に関する日本の技術は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に有用である。 4. かなり有用である。 3. 有用である。 2. あまり有用ではない。 1. 全く有用ではない。 <p>5) 他ドナーの援助との関係について、</p> <ol style="list-style-type: none"> A. 全く重複はない B. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されており、本件と相互補完している。 C. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されているが、本件と相互補完していない <p>(2)</p> <p>1) 目標は、PDMの指標などで</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に明確に示されている。 4. かなり明確に示されている。 3. ある程度明確に示されている。 2. あまり明確に示されていない。 1. 不明確である。 	<p>2) プロジェクトの要望書、基礎調査報告書、事前調査報告書</p> <p>3) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>4) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>5) C/P アンケート</p> <p>(2)</p> <p>1) PDM、実施協議討議議事録</p>
--	--	--	---

	<p>2) PDM の論理性</p> <p>3) 協力期間の長さ</p> <p>4) 全体計画、分野別年次計画の精度</p> <p>5) 評価 / モニタリング活動の組み込み</p>	<p>2) PDM は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に論理的に作成されている(例えば、「プロジェクトの要約」が目的 - 手段関係で構成されている)。 4. かなり論理的に作成されている。 3. ある程度論理的に作成されている。 2. 論理性が弱い。 1. 論理性が非常に弱い。 <p>3) 期間は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 適当である。 4. 少し長い。 または、 4. 少し短い。 3. 長い。 または、 3. 短い。 2. かなり長い。 または、 2. かなり短い。 1. 非常に長い。 または、 1. 非常に短い。 <p>4)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 質の高い全体計画と詳細な分野別年次計画が作成されている。 4. 全体計画とある程度詳細な分野別年次計画が作成されている。 3. 全体計画と分野別年次計画が作成されている。 2. 全体計画と分野別年次計画があるが、特に後者の精度が低い。 1. 全体計画はあるが、分野別年次計画はあらかじめ作成されていない。 <p>5)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. PDM・活動計画に明確に規定されており、評価・モニタリング計画書やモニタリング調書も整備されている。 4. PDM・活動計画に明確に規定されている。 3. PDM・活動計画に何らかの形で規定されている。 2. PDM・活動計画のいずれかに何らかの形で規定されている。 1. 全く規定されていない。 	<p>2) PDM</p> <p>3) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>4) 実施協議報告書、終了時評価報告書、C/P インタビュー</p> <p>5) PDM、全体・年次別活動計画(実施協議報告書、終了時評価報告書)、C/P インタビュー</p>
--	---	---	--

	<p>(3) 計画は参加型で作成されているか。</p> <p>(4) プロジェクト目標の実現が上位目標に結びつくような外部条件の存在が確認されているか。</p> <p>(5) 計画立案への投入は十分であるか。</p>	<p>(3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. PDM や活動計画が、十分な期間のある参加型のワークショップなどにより、当該国の重要関係者・受益者全体の明確な意を汲んで作成されている。 4. PDM や活動計画が、参加型のワークショップなどの開催により、当該国の関係者・受益者の意を汲んで作成されている。 3. PDM や活動計画が、インタビュー・アンケート等により、当該国の関係者・受益者の意を汲んで作成されている。 2. PDM や活動計画の作成において、当該国の関係者・受益者の意見はあまり反映されていない。 1. PDM や活動計画の作成において、当該国の関係者・受益者の意見がほとんど反映されていない。 <p>(4)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 外部条件の存在が明確に確認され、その蓋然性が非常に高かった。 4. 外部条件の存在が確認され、その蓋然性が高かった。 3. 外部条件は明確には確認されていないが、上位目標実現への条件は整っていたと思われる。 2. 外部条件は確認されておらず、上位目標実現への条件も十分には整っていなかった。 1. 外部条件は全く確認されず、プロジェクト目標から上位目標へのつながりが非常に弱い。 <p>(5) プロジェクトの計画立案（始まる前の準備）は、全体的に時間や人手（事前調査を行う日本人コンサルタント・専門家や相手国側の協力者の人数）の面で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 時間も人手も適切にかけられている。 4. 時間も人手もかなりかけられている。 3. 時間も人手もかけられている。 2. 時間も人手も不十分である。 1. 時間も人手も非常に不足している。 	<p>(3) 実施協議報告書、終了時評価報告書、C/P インタビュー、アンケート</p> <p>(4) 事前調査報告書、C/P インタビュー</p> <p>(5) C/P インタビュー、アンケート</p>
--	--	---	--

<p>3. 効率性 3-1. 効率性 (投入対プロジェクト目標)</p>	<p>投入対プロジェクト目標の観点からみて効率的であったか。</p>	<p>投入対目標達成度をみると、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 目標達成度は高く投入にも無駄がなく、効率性は非常に高い。 4. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや高い。 3. 目標達成度・投入の活用度は共に中程度であり、効率性は中程度である(目標達成度は非常に高いがその反面投入の活用度にはかなりの無駄がある場合やその逆も含む)。 2. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや低い。 1. 目標達成度は低く投入にも無駄があり、効率性は非常に低い。 	<p>終了時評価報告書、C/Pインタビュー</p>
<p>3-2. 効率性 (投入対成果)</p> <p>註：評価の5項目としての「効率性」には、3-1.と3-2.を用いる。</p>	<p>投入対成果の観点からみて効率的であったか。</p>	<p>投入対成果をみると、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 成果は高く投入にも無駄がなく、効率性は非常に高い。 4. 成果と投入の活用度からみて、効率性はやや高い。 3. 成果・投入の活用度は共に中程度であり、効率性は中程度である(成果の達成度は非常に高いがその反面投入の活用度にはかなりの無駄がある場合やその逆も含む)。 2. 成果と投入の活用度からみて、効率性はやや低い。 1. 成果は低く投入にも無駄があり、効率性は非常に低い。 	<p>終了時評価報告書、C/Pインタビュー</p>
<p>3-3. 投入の妥当性</p> <p>註：本項目の評価は、中項目(1)～(3)により同等のウエイトで行う。(4)は参考情報とする。</p>	<p>(1) 投入の時期は適当であったか。</p> <p>(2) 投入の質は適当であったか。</p> <p>(3) 投入の量は適当であったか。</p>	<p>(1) 投入(専門家派遣・研修員受入れ・機材供与を別々に見る)は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常によいタイミングであった。 4. よいタイミングであった。 3. 特に支障はなかった。 2. 遅れがあった。 1. 非常に遅れた。 <p>(2) 投入の質が、プロジェクト活動に</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に合っていた。 4. ほぼ合っていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 高かった。または、2. 低かった。 1. 非常に高かった。または、1. 非常に低かった。 <p>(3) 投入の量が、プロジェクト活動に</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に合っていた。 4. ほぼ合っていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 過剰であった。または、2. 不足していた。 1. 非常に過剰であった。または、1. 非常に不足していた。 	<p>(1) C/Pインタビュー、アンケート、日本側専門家アンケート</p> <p>(2) C/Pインタビュー、アンケート、日本側専門家アンケート</p> <p>(3) C/Pインタビューアンケート、日本側専門家アンケート</p>

<p>5. 自立発展性</p> <p>註：プロジェクト組織の役割がもとも特別なものである場合は、(3)だけ該当する。右の中項目(1)、(2)、(3)を同等に評価する。</p>	<p>(1) プロジェクトの実施機関が組織的に自立発展しているか。</p> <p>(2) 財務的に自立発展しているか。</p> <p>(3) 技術的に自立発展しているか。 註：1)と2)・3)を同等に評価する。</p> <p>1) 人的技術 (0.5)</p> <p>2) 機材の保守管理 (0.25)</p>	<p>3. 少なくないといえる。 2. 少ないと思われる。 1. 全くないと思われる。</p> <p>(1)</p> <p>5. プロジェクト終了時より、非常に発展している。 4. プロジェクト終了時より、発展している。 3. ほぼプロジェクト終了時のまま存続している。 2. プロジェクト終了時から縮小傾向にある。 1. 消滅している。</p> <p>(2)</p> <p>5. 財務的に完全に自立し、黒字の状態が続いている。 4. 財務的に完全に自立し、収支は均衡している。 3. 財務的に完全に自立していないものの、政府から安定した財政支援を受けている。 2. 政府からの予算が縮小傾向にある。 1. 政府からの予算がかなり縮小され、極端な赤字体質にある。</p> <p>(3)</p> <p>1) 人的技術</p> <p>5. C/Pが、専門家から修得した技術を応用して、プロジェクト活動を発展させ、さらに組織内で技術を普及している。 4. C/Pが、専門家から修得した技術を活用して、プロジェクト活動を発展させている。 3. C/Pが、修得した技術を用いて、プロジェクト活動を継続している。 2. C/Pの技術に向上の余地がある。また、プロジェクト活動が縮小している。 1. C/Pの技術に向上の余地が多いにある。また、プロジェクト活動が停止している。</p> <p>2)</p> <p>5. 機材の保守管理体制が確立している。 4. 機材の維持管理は行われているが、保守管理体制は確立していない。 3. 機材の維持管理はある程度行われている。 2. 機材の維持管理はあまり行われていない。 1. 機材の維持管理は全く行われていない。</p>	<p>(1) C/Pインタビュー(提出資料を含む)、アンケート</p> <p>(2) C/Pインタビュー(提出資料を含む、できれば、財務諸表)、アンケート</p> <p>(3)</p> <p>1) C/Pインタビュー(提出資料を含む)、アンケート</p> <p>2) C/Pインタビュー、機材管理マニュアル等保守管理に関する資料、アンケート</p>
---	---	--	--

	3) 機材の稼働状況 (0.25)	3) 5. 機材は問題なく稼働している。 4. 機材は稼働している。 3. 機材は稼働しているが、一部稼働していない機材もある。 2. 稼働していない機材がかなりある。 1. 大半の機材は稼働していない。	3) 上記と同じ
--	-------------------	---	----------

2)【開発調査】

評価項目	評価中・小項目	評価基準	評価の根拠となる情報の入手手段
<p>1. 妥当性 1-1. 目標達成度</p> <p>註：右の中項目(1)～(6)の重み付けは、以下の通りである。</p> <p>(1) 0.1 (2) 0.1 (3) 0.3 (4) 0.3 (5) 0.1 (6) 0.1</p>	<p>(1) 最終報告書の内容は質が高いか (註：下記の小項目の比率は同等である。)</p> <p>1) 報告書のわかりやすさ</p> <p>2) 必要な情報ソースの明示度</p> <p>(2) 調査分析手法の精度は高いか</p> <p>(3) 計画(提言)の内容は質が高いか (註：下記の小項目の比率は同等である。)</p> <p>1) 計画の戦略性</p>	<p>(1)</p> <p>1)</p> <p>5. 非常にわかりやすい。 4. かなりわかりやすい。 3. わかりやすい。 2. わかりにくい。 1. 非常にわかりにくい。</p> <p>2)</p> <p>5. 非常に明確に示されている。 4. 明確に示されている。 3. 示されている。 2. 示されているが、かなり不明確である。 1. 全く示されていない。</p> <p>(2)</p> <p>5. 非常に精度が高い。 4. かなり精度が高い。 3. ある程度の精度が確認される。 2. 少し精度が低い。 1. 非常に精度が低い。</p> <p>(3)</p> <p>1)</p> <p>5. 非常に戦略的で各計画に明確に優先順位が付けられている。 4. かなり戦略的で各計画に優先順位が付けられている。 3. 少し総花的ではあるが、優先順位が付けられている。 2. 総花的で優先順位が不明確である。 1. 総花的で優先順位付けが全くなされていない。</p>	<p>(1)</p> <p>1) 関係機関・C/Pインタビュー、アンケート</p> <p>2) 最終報告書</p> <p>(2) 最終報告書</p> <p>(3) 最終報告書</p>

	<p>2) 計画の目標・事業実施計画の明確さ</p> <p>3) 計画の内容の整合性</p> <p>4) 計画の事業化手段の明確さ</p> <p>5) 計画の実現性 註：小項目をさらに以下の5項目に分解する。なお、比重は同等とする。 社会的受容能力</p> <p>事業化を推進する組織の能力</p>	<p>2) 活動項目、実施者が、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に明確に示されている。 4. 明確に示されている。 3. 示されている。 2. 示されているが、かなり不明確である。 1. 全く示されていない。 <p>3) 計画の内容（コンポーネント）の間に</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に整合性がある。 4. かなり整合性がある。 3. 整合性がある。 2. 少し整合性に欠けている。 1. 整合性に全く欠けており、まとまりがない。 <p>4) 事業化手段が、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に明確に示されている。 4. 明確に示されている。 3. 示されている。 2. 示されているが、かなり不明確である。 1. 全く示されていない。 <p>5) 対象地域において、計画の事業化を受入れる社会環境を、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に細かく分析している。 4. 細かく分析している。 3. 分析している。 2. あまり細かく分析していない。 1. 全く分析していない。 <p>能力を、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に細かく分析している。 4. 細かく分析している。 3. 分析している。 2. あまり細かく分析していない。 1. 全く分析していない。 	
--	---	--	--

	<p>技術的評価</p> <p>経済・財務分析</p> <p>環境評価</p> <p>(4) 報告書は活用されているか</p> <p>(5) 技術移転はどの程度されているか。</p>	<p>各種技術について比較案や代替案が、</p> <p>5. 十分に検討されている。</p> <p>4. よく検討されている。</p> <p>3. 検討されている。</p> <p>2. あまり検討されていない。</p> <p>1. 全く検討されていない。</p> <p>便益の測定が、</p> <p>5. 非常に綿密になされている。</p> <p>4. かなり綿密になされている。</p> <p>3. 綿密になされている。</p> <p>2. あまり綿密になされていない。</p> <p>1. 全く綿密になされていない。</p> <p>環境評価を、</p> <p>5. 十分に行っている。</p> <p>4. よく行っている。</p> <p>3. 行っている。</p> <p>2. あまり行っていない。</p> <p>1. 全く行っていない。</p> <p>(4) 報告書は、リソース・ブックとして</p> <p>5. 非常に有効に活用されている。</p> <p>4. かなり有効に活用されている。</p> <p>3. 活用されている。</p> <p>2. あまり活用されていない。</p> <p>1. ほとんど活用されていない。</p> <p>(5) 技術移転は、</p> <p>5. 十分に行われている。</p> <p>4. よく行われている。</p> <p>3. 行われている。</p> <p>2. あまり行われていない。</p> <p>1. 全く行われていない。</p>	<p>(4) CP インタビュー、アンケート</p> <p>(5) CP インタビュー、アンケート</p>
--	---	---	---

	(6) 計画は参加型で作成されているか。	(6) 計画は、 5. 十分に期間を取ったワークショップなどの開催により、当該国の関係者・受益者の明確な意を汲んで作成されている。 4. ワークショップなどの開催により、当該国の関係者・受益者の意を汲んで作成されている。 3. 当該国の関係者・受益者の意を汲んで作成されている。 2. 当該国の関係者・受益者の意はあまり反映されていない。 1. 当該国の関係者・受益者の意は全く反映されていない。	(6) C/P インタビュー、アンケート
1-2. 成果のプロジェクト目標達成への貢献度	(1) プロジェクト目標の達成は、成果の実現によるものであるか。	(1) プロジェクトがなかった場合の推察、あるいは他地域との比較などにより、プロジェクト目標の達成は、成果の実現によるところが 5. 非常に大きいといえる。 4. 大きいといえる。 3. 少ないといえる。 2. 少ないと思われる。 1. 全くないと思われる。	(1) C/P インタビュー、他地域との統計比較
2. 有効性 註：右の中項目(1)～(3)の重み付けは、以下の通りである。 (1) 0.4 (2) 0.4 (3) 0.2	(1) 当該国のニーズに合っているか (註：下記の小項目の比率は同等である) 1) 政策的な案件の重要性 2) 受益者の存在	(1) 1) 本件が開発政策や政府の支出面などでみた当該国にとっての重要なセクターに属し 5. 本件は同セクターの中での重要な開発課題に関わりが深いものである。 4. 本件は同セクターの中での重要な開発課題に関わりがある。 3. ている。 2. てはいないものの、政策文書で強調されるなど、重要な開発課題と考えられる。 1. ておらず、特に重要な開発課題と考えられる理由がない。 2) 要望書や事前調査等で 5. 広範な受益者が明確に確認されている。 4. 広範な受益者がある程度明確に確認されている 3. 一定の受益者が確認されている。 2. 一定の受益者が規定されているが、あまり明確ではない。 1. 受益者が少ない上に明確に規定されていない。	(1) 1) 事前調査報告書、開発計画、セクター分析の結果 2) 事前調査報告書、最終報告書

	<p>3) スキーム選択の適切さ</p> <p>4) 日本(コンサルタント)の技術の有用度</p> <p>(2) 調査計画は適切に作成されたか (注: 下記の小項目の比率は同等である)</p> <p>1) 調査期間の長さ</p> <p>2) 団員構成</p> <p>3) 他ドナーとの援助の重複はないか (本項目は5段階評価の算出ではなく、タイプを判別するために行う)</p>	<p>3) 本件で選択されたスキームは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に適している。 4. 適している。 3. 特に問題はない。 2. あまり適していない。 1. 全く適しておらず、より適切なスキームがある。 <p>4) 本件に関する技術は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に有用である。 4. かなり有用である。 3. 有用である。 2. あまり有用ではない。 1. 全く有用ではない。 <p>(2)</p> <p>1) 調査期間の長さは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 適当である。 4. 少し長い。 または、 4. 少し短い。 3. 長い。 または、 3. 短い。 2. かなり長い。 または、 2. かなり短い。 1. 非常に長い。 または、 1. 非常に短い。 <p>2) 団員構成は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 必要な分野をちょうどカバーしていた。 4. ほぼ必要な分野をカバーしていた。 3. 特に問題はなかった。 2. 必要な分野が一部欠けていた。 1. 必要な分野が著しくかけていた。 <p>3) 他ドナーの援助との関係について、</p> <ol style="list-style-type: none"> A. 全く重複はない。 B. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されているが、本件と相互補完している。 C. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されているが、本件と相互補完していない。 	<p>3) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>4) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>(2)</p> <p>1) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>2) C/P インタビュー、アンケート</p> <p>3) C/P インタビュー、アンケート</p>
--	--	--	---

	(3) 開発調査の提言が事業化されるような外部条件の存在が確認されているか。	(3) 5. 外部条件の存在が明確に確認され、その蓋然性が非常に高かった。 4. 外部条件の存在が確認され、その蓋然性が高かった。 3. 外部条件は明確には確認されていないが、事業化への条件は整っていたと思われる。 2. 外部条件は確認されておらず、事業化への条件も十分には整っていなかった。 1. 外部条件は全く確認されず、そもそも開発調査の事業化への条件は全く整っていない。	(3) 事前調査報告書、関係機関・C/P インタビュー
3. 効率性 3-1. (投入対プロジェクト目標)	投入対プロジェクト目標(開発調査の成果品)の観点からみて効率的であったか。	投入対目標達成度をみると、 5. 目標達成度は高く投入にも無駄がなく、効率性は非常に高い。 4. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや高い。 3. 目標達成度・投入の活用度は共に中程度であり、効率性は中程度である(目標達成度は非常に高いが、その反面投入の活用度にはかなりの無駄がある場合やその逆も含む)。 2. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや低い。 1. 目標達成度は低く投入にも無駄があり、効率性は非常に低い。	最終報告書、関係機関・C/P インタビュー、アンケート
3-2. 効率性 (投入対成果) 註：評価の5項目としての「効率性」には、3-1.と3-2.を用いる。	投入対成果の観点からみて効率的であったか。	投入対成果をみると、 5. 成果は高く投入にも無駄がなく、効率性は非常に高い。 4. 成果と投入の活用度からみて、効率性はやや高い。 3. 成果・投入の活用度は共に中程度であり、効率性は中程度である(成果の達成度は非常に高いがその反面投入の活用度にはかなりの無駄がある場合やその逆も含む)。 2. 成果と投入の活用度からみて、効率性はやや低い。 1. 成果は低く投入にも無駄があり、効率性は非常に低い。	最終報告書、関係機関・C/P インタビュー、アンケート
3-3.投入の妥当性 註：本項目の評価は、中項目(1)～(3)により同等のウエイトで行う。(4)は、参	(1) 投入の時期は適当であったか。	(1) 投入(コンサルタント派遣)の時期は、 5. 非常によいタイミングであった。 4. よいタイミングであった。 3. 特に支障はなかった。 2. 遅れがあった。 1. 非常に遅れた。	(1) C/P インタビュー、アンケート

考情報とする。	<p>(2) 投入の質は適当であったか。</p> <p>(3) 投入の量は適当であったか。</p> <p>(4) C/P1 人当たりの団員数はどうであったか</p>	<p>(2) 投入の質は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に高かった。 4. 高かった。 3. 特に問題はなかった。 2. 低かった。 1. 非常に低かった。 <p>(3) 投入の量は、プロジェクト活動に</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に合っていた。 4. ほぼ合っていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 過剰であった。 または、 2.不足していた。 1. 非常に過剰であった。 または、 2.非常に不足していた。 <p>(4) C/P1 人当たりの団員数は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 全く過不足なかった。 4. ほぼ過不足なかった 3. 完全ではないが、特に支障はなかった 2. やや過剰であった。 2. やや不足していた。 1. 非常に過剰であった。 1. 非常に不足していた。 	<p>(2) C/P インタビュー、アンケート、日本側コンサルタントアンケート</p> <p>(3) C/P インタビュー、アンケート、日本側コンサルタントアンケート</p> <p>(4) C/P インタビュー、アンケート</p>
<p>4. インパクト</p> <p>4-1.上位目標・マイナス効果の発現度</p>	<p>最終報告書受領後、</p> <p>(1) 提言内容は事業化されているか。</p>	<p>(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 全面的に事業化されている。 4. かなりの部分が事業化されている。 3. 一部事業化されている。 2. 事業化が遅延している。 1. 事業化の見通しが全くない。 	<p>(1) 関係機関・C/P インタビュー、アンケート、フォローアップ調査報告書</p>

	<p>(2) 事業化された結果、どのような影響を与えているか</p>	<p>(2)</p> <p>1) 計画の事業化後、5年程度を経過した時点で、(註：5年を経過していない場合は、今後の見込みで判断する)</p> <p>5. プロジェクトの拠点を含む比較的広い範囲(例：市町村)もしくは、2万人以上の最終受益者個々人の暮らし向きに大きな影響を及ぼすような高い効果(例：児童の学力の向上、健康の改善、生産量の増大、収入の増大、衣食住の改善等で、受益者が自分ではっきり認識できる程度の効果)が確認できる、</p> <p>あるいは、</p> <p>プロジェクトの拠点を含む広い範囲(例：県)もしくは20万人以上の最終受益者個々人に(「高い」まではいかないが)ある程度の効果が確認できる。</p> <p>4. プロジェクトの拠点を含む比較的広い範囲(例：市町村)もしくは2万人以上の最終受益者にある程度の効果が確認できる、</p> <p>あるいは、</p> <p>プロジェクトの拠点のみではあるが高い効果が確認できる。</p> <p>3. プロジェクトの拠点でのみある程度の効果が確認できる。</p> <p>2. プロジェクトの拠点でもあまり効果は出ていない。</p> <p>1. プロジェクトの拠点でもほとんど効果は出ていない。</p> <p>2) マイナス効果は、</p> <p>5. 全く現れていない。</p> <p>4. ほとんど現れていない。</p> <p>3. 少し現れている。</p> <p>2. ある程度現れている。</p> <p>1. かなり現れている。</p>	<p>(2) 関係機関・C/Pインタビュー、アンケート</p>
--	------------------------------------	---	---------------------------------

<p>4-2. 実現されたインパクトへの（本開発調査で計画された）プロジェクトの貢献度</p>	<p>(1) インパクトの発現は、プロジェクトの実施によるものであるか。</p>	<p>(1) プロジェクトがなかった場合の推察、あるいは他地域との比較などにより、インパクトの現れはプロジェクトの実施によるところが</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に大きいといえる。 4. 大きいといえる。 3. 少ないといえる。 2. 少ないと思われる。 1. 全くないと思われる。 	<p>(1) CPインタビュー、他地域との統計比較</p>
---	--	--	-------------------------------

<p>5. 自立発展性</p> <p>(1) (2) (3) を同等に評価するが、実態にそぐわない時は適宜調整する。</p>	<p>(1) 開発調査の実施機関が組織的に自立発展しているか。</p> <p>(2) 財務的に自立発展しているか。</p> <p>(3) 技術的に自立発展しているか。 <small>注：1)と2)・3)を同等に評価するが、実態にそぐわない時は適宜調整する。</small></p> <p>1) 人的技術 (0.5)</p> <p>2) 機材の保守管理 (0.25)</p>	<p>(1)</p> <p>5. プロジェクト終了時より、非常に発展している。 4. プロジェクト終了時より、発展している。 3. ほぼプロジェクト終了時のまま存続している。 2. プロジェクト終了時から縮小傾向にある。 1. 消滅している。</p> <p>(2)</p> <p>5. 財務的に完全に自立し、黒字の状態が続いている。 4. 財務的に完全に自立し、収支は均衡している。 3. 財務的に完全に自立していないものの、政府から安定した財政支援を受けている。 2. 政府からの予算が縮小傾向にある。 1. 政府からの予算がかなり縮小され、極端な赤字体質にある。</p> <p>(3)</p> <p>1)</p> <p>5. C/Pが、専門家から修得した技術を応用して、プロジェクト活動を発展させ、さらに組織内で技術を普及している。 4. C/Pが、専門家から修得した技術を活用して、プロジェクト活動を発展させている。 3. C/Pが、修得した技術を用いて、プロジェクト活動を継続している。 2. C/Pの技術に向上の余地がある。また、プロジェクト活動が縮小している。 1. C/Pの技術に向上の余地が多いにある。また、プロジェクト活動が、停止している。</p> <p>2)</p> <p>5. 機材の保守管理体制が確立している。 4. 機材の維持管理は行われているが、保守管理体制は確立していない。 3. 機材の維持管理はある程度行われている。 2. 機材の維持管理はあまり行われていない。 1. 機材の維持管理は全く行われていない。</p>	<p>(1) C/P インタビュー (提出資料を含む) アンケート</p> <p>(2) C/P インタビュー (提出資料を含む、できれば、財務諸表) アンケート</p> <p>(3)</p> <p>1) C/P インタビュー (提出資料を含む) アンケート</p> <p>2) C/P インタビュー、機材管理マニュアル等保守管理に関する資料、アンケート</p>
--	---	--	---

	3) 機材の稼働状況 (0.25)	3) 5. 機材は問題なく稼働している。 4. 機材は稼働している。 3. 機材は稼働しているが、一部稼働していない機材もある。 2. 稼働していない機材がかなりある。 1. 大半の機材は稼働していない。	3) 上記と同じ
--	-------------------	---	----------

3)【研修員受入れ】

評価大項目	評価中・小項目	評価基準	評価の根拠となる情報の入手手段
<p>1. 妥当性 1-1.目標達成度</p> <p>註：達成度の背景・原因分析も、収集資料やアンケートやインタビュー結果の分析により行う。</p>	<p>(1) 各種報告書に示された目標は達成されているか。</p> <p>(2) 研修員の認識では目標は達成されているか。</p>	<p>(1) 目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 達成されている（10割以上） 4. かなり達成されている（9割以上） 3. 概ね達成されている（8割以上） 2. あまり達成されていない（6割以上） 1. 達成されていない（6割未満） <p>(2) 研修員の認識では、研修前に期待していた技術を</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に修得できた。 4. かなり修得できた。 3. 修得できた。 2. あまり修得できなかった。 1. 全く修得できなかった。 	<p>(1) 終了時評価報告書</p> <p>(2) 研修員アンケート</p>
<p>2. 有効性</p> <p>註：小項目毎に評価した後、その平均により中項目の評価を行い、さらに中項目の平均により、「計画の妥当性」全体の評価とする（以下同じ）。</p>	<p>(1) 当該国のニーズに合っているか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 政策目標との関連 2) スキーム選択の適切さ 3) 日本の技術の有有用度 	<p>(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門家派遣は、 <ol style="list-style-type: none"> 5. 重要な政策目標と非常に密接な関連が認められる。 4. 重要な政策目標とかなりの関連が認められる。 3. 重要な政策目標との関連が認められる 2. 重要な政策目標との関連が明確ではない。 1. 重要な政策目標と関連していない。 2) 本件で選択されたスキームについて、 <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に適している。 4. 適している。 3. 特に問題はない。 2. あまり適していない。 1. 全く適しておらず、より適切なスキームがある。 3) 本件に関する日本の技術は、 <ol style="list-style-type: none"> 5. 非常に有用である。 4. かなり有用である。 3. 有用である。 2. あまり有用ではない。 1. 全く有用ではない。 	<p>(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 終了時評価報告書 2) 研修員アンケート、研修員所属先アンケート 3) 研修員アンケート

	<p>4)他ドナーとの援助の重複について (本項目は参考情報であり、5段階評価ではなく、タイプを判別する。)</p> <p>(2) 研修計画は適切に作成されているか。</p> <p>1) 研修ニーズの大きさ</p> <p>2) 研修目的の明確さ</p> <p>3)研修員所属先の研修計画との整合性</p> <p>4)派遣元の研修員の人選基準の明確さ</p>	<p>4) 他ドナーの援助との関係について、</p> <p>A. 全く重複はない</p> <p>B. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されているが、本件と相互補完している</p> <p>C. 近隣(同一箇所を含む)で他ドナーの類似の協力が展開されているが、本件と相互補完していない</p> <p>(2)</p> <p>1) 研修ニーズは、</p> <p>5. 非常に大きかった。</p> <p>4. かなり大きかった。</p> <p>3. 大きかった。</p> <p>2. あまり大きくなかった。</p> <p>1. 非常に小さかった。</p> <p>2) 研修の目的は、</p> <p>5. 非常に明確だった。</p> <p>4. かなり明確だった。</p> <p>3. 明確だった。</p> <p>2. あまり明確ではなかった。</p> <p>1. 非常に不明確だった。</p> <p>3)(職員研修計画がある場合)当該研修と所属先の職員研修計画とは、</p> <p>5. 非常に整合性がある。</p> <p>4. かなり整合性がある。</p> <p>3. 整合性がある。</p> <p>2. あまり整合性がない。</p> <p>1. 全く整合性がない。</p> <p>4) 研修員の人選基準は、</p> <p>5. 非常に明確である。</p> <p>4. かなり明確である。</p> <p>3. 明確である。</p> <p>2. あまり明確ではない。</p> <p>1. 非常に不明確である。</p>	<p>4)研修員所属先アンケート</p> <p>(2)</p> <p>1)研修員所属先アンケート</p> <p>2)研修員所属先アンケート</p> <p>3)研修員所属先アンケート</p> <p>4)研修員所属先アンケート</p>
--	--	--	---

	5) 研修の時期	5) 研修の時期は、 5. 非常によいタイミングであった。 4. よいタイミングであった。 3. 特に支障はなかった。 2. 遅れた。 または、 2. 早かった。 1. 非常に遅れた。 または、 1.非常に早かった。	5) 研修員アンケート、研修員所属先アンケート
3. 効率性	(1) 研修運営の適切さ (2) 受講生のニーズに対する研修内容の適切さ（研修項目の適切さ、講義・演習・視察のバランス） (3) 受講生のニーズに対する研修レベルの適切さ (4) 研修講師の能力・技術	(1) 研修の運営は、 5. 非常に適切であった。 4. かなり適切であった。 3. 特に支障はなかった。 2. あまり適切ではなかった。 1. 非常に不適切であった。 (2) 受講生のニーズに対して研修内容は、 5. 非常に合っていた。 4. ほぼ合っていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 高かった。 または、 2. 低かった。 1. 非常に高かった。 または、 1. 非常に低かった。 (3) 受講生のニーズに対して研修レベルは、 5. 非常に合っていた。 4. ほぼ合っていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 高かった。 または、 2. 低かった。 1. 非常に高かった。 または、 1. 非常に低かった。 (4) 研修講師の講義や研修面での能力・技術は、 5. 非常に優れていた。 4. 優れていた。 3. 特に支障はなかった。 2. 不十分であった。 1. 非常に弱かった。	(1) 研修員アンケート (2) 同上 (3) 同上 (4) 同上

	(5) 受講生のニーズに対する研修期間の適切さ	(5) 受講生のニーズに対して、研修期間は、 5. 適当である。 4. 少し長い。 または、 4. 少し短い。 3. 長い。 または、 3. 短い。 2. かなり長い。 または、 2. かなり短い。 1. 非常に長い。 または、 1. 非常に短い。	(5) 同上
4. インパクト	研修員帰国後（研修終了後） (1) 研修は、研修員の業務に活用されているか。 (2) 技術移転の結果、仕事や職場にどのような影響が出ているか。	(1) 帰国後、研修員は、修得した技術を業務に 5. 非常に活用している。 4. かなり活用している。 3. 活用している。 2. あまり活用していない。 1. 全く活用していない。 (2) 仕事や職場に 5. 非常に大きなプラスの影響が出ている。 4. 大きなプラスの影響が出ている。 3. ある程度プラスの影響が出ている。 2. プラスの影響はあまり出ていない。 1. プラスの影響は全く出ていない。	(1) 研修員アンケート、 研修員所属先アンケート (2) 同上

2. プログラム評価のフレームワーク

評価大項目	評価中・小項目	評価基準	評価の根拠となる情報の入手手段
<p>1. 妥当性</p> <p>1-1. プログラム目標の妥当性</p> <p>1-2. プログラムを構成するプロジェクトの組合せの適切さ</p>	<p>プログラム目標は妥当だったか。</p> <p>1-2.</p> <p>(1) プロジェクト目標の選定と組合せ</p> <p>(2) C/P 機関の選定と組合せ</p>	<p>1-1. プログラム目標は、セクターにおける重要な開発課題に</p> <p>5. よく合致しており、かつ優先度の非常に高い課題である。</p> <p>4. よく合致している。</p> <p>3. ある程度合致している。</p> <p>2. あまり合致していない。</p> <p>1. 全く合致していない。</p> <p>1-2.</p> <p>(1) プログラム目標を支援するために選ばれ、組み合わせられたプロジェクト目標（協力課題、協力分野あるいは協力テーマ）が、各協力課題の必要性・重要性、補完関係・相乗効果やバランスなどの観点から適切だったかどうか。</p> <p>5. 考えられる最も適切な選定・組合せだった。</p> <p>4. 非常に良い選定・組合せだった。</p> <p>3. 概ね適切な選定・組合せだった。</p> <p>2. あまり適切でなかった。</p> <p>1. 不適切だった。</p> <p>(2) プログラム目標を支援するために選ばれ、組み合わせられた C/P 機関が、各 C/P 機関の組織的・技術的・財政的能力、C/P 機関相互の関係、関連機関全体のバランスの観点から適切だったかどうか。</p> <p>5. 考えられる最も適切な選定・組合せだった。</p> <p>4. 非常に良い選定・組合せだった。</p> <p>3. 概ね適切な選定・組合せだった。</p> <p>2. あまり適切でなかった。</p> <p>1. 非常に不適切だった。</p>	<p>1-1. 開発課題体系図による分析、他ドナーインタビュー</p> <p>1-2.</p> <p>(1) 開発課題体系図による分析、他ドナーインタビュー、個別案件評価の結果。</p> <p>(2) 個別案件評価の結果。</p>

	<p>(3) 協カスキームの選定と組合せ</p> <p>(4) プロジェクト相互の連携</p> <p>(5) 他ドナーの協カ事業との関係</p>	<p>(3) プログラム目標を支援するために選ばれ、組み合わされた協カスキームが、ニーズに応じたスキームの選カ、総合性あるいは多様性、スキームの組合せとバランスなどの観点から適切だったかどうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 考えられる最も適切な選カ・組合せだった。 4. 非常に良い選カ・組合せだった。 3. 概ね適切な選カ・組合せだった。 2. あまり適切でなかった。 1. 非常に不適切だった。 <p>(4) プログラムに含まれるプロジェクトが、プログラム目標あるいはプロジェクト目標を効果的に達成するための実務上の連携（概念上の連携ではなく、提案 実施やプロジェクト間の具体的な連動・協カ・情報共有など）をどの程度持つように計画されたか。以下の基準を適用したのち、プロジェクト実施の順序に重要な問題が見られる場合は、評価を1段階下げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ほぼ全てのプロジェクトが密接な連携を持つように計画された。 4. ほぼ全てのプロジェクトが比較的高い連携を持つ、あるいは過半数のプロジェクトが密接な連携を持つように計画された。 3. 過半数のプロジェクトが比較的高い連携を持つよう計画された。 2. 過半数のプロジェクトがほぼ独立して計画された。 1. 全てのプロジェクトがほぼ独立して計画された。 <p>(5) プログラムに含まれるプロジェクトが他ドナーの協カ事業との程度適切に連携して計画されたか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ほぼ全てのプロジェクトが重複を避け、積極的に連携して計画された。 4. ほぼ全てのプロジェクトが重複を避け、一部のプロジェクトは積極的に連携して計画された。 3. ほぼ全てのプロジェクトが重複を避けて計画された。 2. 一部のプロジェクトに小さな重複が見られる。 1. 一部のプロジェクトに大きな重複が見られる。 	<p>(3) 個別案件評価の結果。</p> <p>(4) 個別案件評価の結果。</p> <p>(5) 個別案件評価の結果。ドナー・インタビュー。</p>
--	--	--	--

	(6) 総合評価	(6)以上の評点を以下の重みで平均して、0.5 単位で算出する。ただし、理由があればプログラムや分野の特徴に合わせて重みを修正してもよい。 プロジェクト目標の選定と組合せ 20% C/P 機関の選定と組合せ 20% 協カスキームの選定と組合せ 20% プロジェクト相互の連携 20% 他ドナーの協力事業との関係 20%	
2. 有効性	プロジェクト目標の全体達成度	個別案件評価の評点を総合的に判断して、全体としてのプロジェクト目標達成度を判断する。 PDM 等に示された目標は、 5. 達成されている (10割以上) 4. かなり達成されている (9割以上) 3. 概ね達成されている (8割以上) 2. あまり達成されていない (6割以上) 1. 達成されていない (6割未満)	(1) 個別案件評価 (2) 個別案件評価
3. 効率性 投入対プロジェクト目標	投入対プロジェクト目標の効率性はどの程度か。	個別案件評価の評点を総合的に判断して、全体としての投入対プロジェクト目標の効率性を判断する。 5. 目標達成度は高く投入にも無駄がなく、効率性は非常に高い。 4. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや高い。 3. 目標達成度・投入の活用度は共に中程度であり、効率性は中程度である (目標達成度は非常に高いが、その反面投入の活用度にはかなりの無駄がある場合やその逆も含む) 2. 目標達成度と投入の活用度からみて、効率性はやや低い。 1. 目標達成度は低く投入にも無駄があり、効率性は非常に低い。	個別案件評価

<p>4. インパクト 4-1.プログラム目標に関連する望ましいインパクト</p>	<p>プログラム目標に関連する望ましいインパクトはどの程度発現したか。</p>	<p>4-1. プロジェクト期間の終了（例：技術協力の終了、施設の完成）後、5年程度を経過した時点で、（注：5年を経過していない場合は、今後の見込みで判断する）</p> <p>5. プロジェクトの拠点を含む比較的広い範囲（例：市町村）もしくは2万人以上の最終受益者個々人の暮らし向きに大きな影響を及ぼすような高い効果（例：児童の学力の向上、健康の改善、生産量の増大、収入の増大、衣食住の改善等で、受益者が自分ではっきり認識できる程度の効果）が確認できる、</p> <p>あるいは、 プロジェクトの拠点を含む広い範囲（例：県）もしくは20万人以上の最終受益者個々人に（「高い」までとはいかないが）ある程度の効果が確認できる。</p> <p>4. プロジェクトの拠点を含む比較的広い範囲（例：市町村）もしくは2万人以上の最終受益者にある程度の効果が確認できる、</p> <p>あるいは、 プロジェクトの拠点で高い効果が確認できる。</p> <p>3. プロジェクトの拠点でのみ、ある程度の効果が確認できる。</p> <p>2. プロジェクトの拠点でも、あまり効果は出ていない。</p> <p>1. プロジェクトの拠点でも、ほとんど効果は出ていない。</p>	<p>4-1. 個別案件評価</p>
<p>4-2. 望ましくないインパクト</p>	<p>望ましくないインパクトはどの程度現れたか。</p>	<p>4-2.</p> <p>5. マイナス効果は、全く現れていない。</p> <p>4. マイナス効果は、ほとんど現れていない。</p> <p>3. マイナス効果は、少し現れている。</p> <p>2. マイナス効果は、ある程度現れている。</p> <p>1. マイナス効果は、かなり現れている。</p>	<p>4-2. 個別案件評価</p>

4-3. プロジェクト目標のプログラム目標への貢献度	プロジェクト目標はプログラム目標にどのように貢献したか。	4-3. 各プロジェクト目標のプログラム目標への貢献度を個別に記述し、それを総合的に判断して、全体としての貢献度を判断する。プロジェクトがなかった場合の推察、あるいは他地域との比較などにより、プログラム目標の達成は、プロジェクト目標の実現によるところが、 5. 非常に大きいといえる。 4. 大きいといえる。 3. 少ないといえる。 2. 少ないと思われる。 1. 全くないと思われる。	4-3. 個別案件評価
5. 自立発展性 5-1. プロジェクト目標レベル 5-2. プログラム目標レベル	プロジェクト目標レベルの自立発展性はどの程度か。 (1) 政策面 (2) 組織制度面 (3) 経済・財務面 (4) 技術面 (5) 総合評価	5-1. 個別案件評価の自立発展性の結果を総合的に判断する。プロジェクト目標レベルの自立発展性が 5. 非常に高い。 4. 高い。 3. 普通。 2. やや低い。 1. 非常に低い。 5-2. (1) ~ (4) まで共通。 達成されたプログラム目標が今後も維持あるいは発展してゆくための各側面の条件が、 5. 非常によく整っている。 4. よく整っている。 3. ある程度ととのっている。 2. あまり整っていない。 1. ほとんど整っていない。 (5) 上記を総合的に判断して、プログラム目標レベルの自立発展性が 5. 非常に高い。 4. 高い。 3. 普通。 2. やや低い。 1. 非常に低い。	5-1. 個別案件評価 5-2. 個別案件評価、課題体系図の分析

<p>6. 貧困・ジェンダー</p> <p>6-1. 貧困</p> <p>右の項目(1)と(2)にはイエス・ノーで答え、報告書本文では記述(原因・事例)を補足する。(3)と(4)は、4.インパクトの5段階評価基準で示し、やはり報告書本文では記述(原因・事例)を補足する。</p> <p>6-2. ジェンダー</p> <p>右の項目(1)と(2)にはイエス・ノーで答え、報告書本文では記述(原因・事例)を補足する。(3)と(4)は、4.インパクトの5段階評価基準で示し、やはり報告書本文では記述(原因・事例)を補足する。</p>	<p>(1) 貧困の地域格差</p> <p>(2) 貧困層の対象化</p> <p>(3) 貧困層へのインパクト</p> <p>(4) 貧困層へのマイナスのインパクト</p> <p>(1) ジェンダーの対象化</p> <p>(2) 社会的性差へのインパクト</p> <p>(3) 社会的性差へのマイナスのインパクト</p>	<p>6-1. (1) プロジェクト地域は貧困地域であるか。</p> <p>(2)</p> <p>1) プロジェクト地域内の貧困層や貧困地域が特定されていたか。</p> <p>2) 社会調査等(簡易社会調査を含む)によって貧困層から直接的に情報を入手したか。</p> <p>3) 貧困層が直接的にプロジェクトの計画・実施・評価に参画したか。</p> <p>4) 貧困層がプロジェクトの受益者として成果やプロジェクト目標の対象となったか(貧困層への配慮を含む)。</p> <p>5) 貧困層の便益が明確に予測されたか。</p> <p>(3) (2)-5)に示された便益が現れたか。</p> <p>(4) プロジェクトが貧困層に対してマイナスの効果・影響を与えていないか。</p> <p>6-2. (1)</p> <p>1) プロジェクト地域内の社会的性差(ジェンダー)が把握されていたか。</p> <p>2) 社会調査等(簡易社会調査を含む)によって女性から直接的にプロジェクトに関連する情報を入手したか。</p> <p>3) 女性が直接的にプロジェクトの計画・実施・評価に参画したか。</p> <p>4) 女性がプロジェクトの受益者として成果やプロジェクト目標の対象となったか(ジェンダーへの配慮を含む)。</p> <p>5) 女性の便益が明確に予測されたか。</p> <p>(2) (1)-5)に示された便益が現れたか。</p> <p>(3) 社会的性差へのマイナスの効果・影響を与えていないか。</p>	<p>(1) 貧困削減ペーパー</p> <p>(2) 各種報告書、C/P インタビュー</p> <p>(3) 各種報告書、C/P インタビュー</p> <p>(4) C/P インタビュー</p> <p>(1) 各種報告書、C/P インタビュー</p> <p>(2) 各種報告書、C/P インタビュー</p> <p>(3) C/P インタビュー</p>
---	--	---	---

3. 外部環境要因に関する評価

目標達成度における「外部環境要因」の評価は、以下のような5段階評価である。

- +2：大きな良い影響（例：予期していなかった法制度の確立、財政・経済的な追い風、他のドナーの大規模な補完援助等）
- +1：小さな良い影響
- 0：特に影響なし
- 1：小さな悪影響
- 2：大きな悪影響（例：政権交代による方針転換、上部組織の統廃合、実施機関の大幅な予算・人員削減等）

註）起こることを想定している外部条件が満たされない場合も含む。